

「新人、半年を経て」

交通局高速鉄道建設部用地事務所

竹澤 伸乃丞

交通局内での研修最終日、明日からの配属先が用地事務所ということ命ぜられました。全然イメージができませんでしたが、一度、局内での研修で見学に訪れていましたが、仕事をしている姿は見れませんでした。地下鉄が日吉から中山間を通ること。そして、その際に地下鉄の通る必要な土地が約70%買収済みだということ。そのときの私は「横浜市高速鉄道4号線日吉～中山間」を建設することさえ知らず、ただただ人ごとのように、そのようなこともやって

るのかと聞いていました。

用地事務所への配属。前日の夜、仕事の内容がわからず不安であり眠れなかったことを覚えていてます。職場へ到着し、一度研修で職場を見ていたのでわかつてはいましたが、事務所はプレハブ。私の役所のイメージはどでかい建物。なんとなく違和感というか、役所にも色々あるのだから改めて感じました。事務所内で説明を受け、用地事務所の仕事は地下鉄建設に必要な土地の買収をするということ、そして今年が4号線用地取得のピークだということも重ねて聞きました。自分の中で少しずつですが用地事務所のイメージができていきそうな気がしました。そのような職場だからみんな疲れた暗い顔をしているのかなと思っていました。しかし、みなさんは明るく私たちを迎えてくれました。年齢層も他の職場に比べると若く、元氣のある生き生きとした職場だなと感じました。初めてづくしの私は多少の緊張もあったのと、お堅いと思っっている公務員ということもあって同じ班の先輩に初めて

質問したことは、「トイレに行きたい場合はどうすれば？」でした。今思えば、たった半年前ですが私も若かったなと思えます。入庁してからの半年間で私が、私も少しづつ仕事を覚えてきたと思っっています。仕事を知ることにつれ不安も増えてきています。地下鉄は市民の皆様やお客様に必要とされ利用していただけるのか、これからのようにすれば先輩方の役にたつことができるか。特に不安に思っっているのは、いつまでも初心を忘れずにいられるか。面接の時にも私は言いました。時が経つにつれ横浜市に入庁する前の自分の気持ちや薄れ、市民の意見が分からなくなっていく。そのような「官」の人間にはなりたくないのです。まだ半年、しかしそのときの気持ちや薄れていっっているのは否定できません。そのことに気がついたときは、毎回入庁前の自分を見つけないと思っいます。自分がいつまでも「公」を目指す。その気持ちを忘れず今日も仕事に励みたいと思っます。

あとがき

地方分権の時代を迎え、自治体は全国一律の政策展開から地域の実情にあった独自の政策を打ち出すことが一層可能な時代となった。特に、政令指定都市では基礎的自治体として市民のニーズを直接把握しながら事務を執行するとともに、都道府県の事務や権限の一部も処理できるため、一般の市町村よりも政策面で幅広い選択を行うことが出来る。このことは、全国一律に行うべきナショナルミニマムの部分を別にすれば、自治体の政策やそれを立案するための創意工夫といったものにより地域間格差が生じてくるということである。

非「成長・拡大」の時代には、地域のニーズを分析・把握するとともに地域の資源や魅力を発掘し、それを活かした政策形成が必要と同時に、その政策の評価も重要となってくる。

特に350万人の人口を擁する本市では、科学的な政策研究機能が必要と考えられるが、自治体における政策研究の手法には決まったものがあるわけではない。ただ一つ容易に想像することは、あることがらについて熱心な職員が、与えられた仕事の枠にこだわらず、自分なりの信念を持って仕事にあたる

きた結果、全国に誇れる、非常に面白い企画が生まれてくるのではないかといいことである。自分なりの信念を持って、中長期的視点から地域の課題を見つけ、悩み、試行錯誤を重ねながら地道に解決の方向性を探っていくという政策研究セッションは、今のような時代だからこそ必要なはずである。しかし、長引く景気低迷（という言葉では我が国経済の状況は言い表せないまでもなっているが）の影響により、どこの自治体も財政的に余裕のあるところは少ない。厳しい情勢の中で、行政にも効率化・スリム化が求められてきており、調査・研究セッションの研究内容も変化してきている。職員一人ひとりの意欲が試される。（も）

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「自主研究レポート」への投稿をお待ちしています。

応募される方は、事前に研究の概要をA4紙3枚以内にまとめて企画局政策部調査課までお送りください。
FAX 663・4613
お問い合わせは、
電話 671・2029

●第148号(二〇〇二年二月)

特集・都市と健康

- 1 都市と健康 ————— 黒田善雄
 - 2 健康観を問いなおす ————— 立川昭二
 - 3 健康横浜21の概要 ————— 富田千秋
 - 4 市民の健康づくり
 - ①市民と運動・スポーツ ————— 高田英臣・三木英之
 - ②栄養・食生活と生活習慣病 小川節子・古厩智枝
 - ③地域の健康づくり―神奈川県三ツ沢地区保健活動推進員の活動 ————— 田中政一
 - 5 心の健康
 - ①ライフスタイルとストレス ————— 武藤清栄
 - ②親と子の心の絆は ————— 山田和恵
 - ③横浜におけるメンタルヘルスト ————— 斎藤 惇
 - 6 緩和ケアの現場で ————— 高宮有介
 - 7 安心して死を迎えられますか？葬祭は今 ————— 碑文谷創
- 自主研究レポート/ボランティアな活動との協働に向けて
介護保険と地域ケア ————— 村田和義
- 新鮮力/高齢者福祉2つの現場から ————— 小山敬之

●第149号(二〇〇二年三月)

特集・都市の暮らしやすさ

- 1 これからの暮らしやすさを考える
 - ①人口動態から見る都市の暮らしやすさ―大江守之
 - ②成熟社会における既存資源の活用―公園・緑地を中心に ————— 進士五十八
 - ③市民の暮らしやすさを支える交通体系―中村文彦
 - ④横浜の働きやすさ―構造変化を伴いつつも充実する横浜の都市機能 ————— 河合良介
 - ⑤横浜の家族の変化と子育て・高齢者介護 ————— おち とよこ
 - ⑥横浜の地域社会と市民が創る暮らしやすさ ————— 名和田是彦
 - ⑦横浜のランドスケープと丘陵崖都市の幸せと不幸 ————— 岸 由二
- 2 暮らしやすさを表現する方法―暮らしやすさ指標
 - ①世界の都市の暮らしやすさ、働きやすさ―編集部調査から ————— 編集部
 - ②市民生活の多様性と暮らしやすさ―市民生活行動調査から ————— 編集部
 - ③GISで表現する横浜の暮らしやすさ―入江佳久
 - ④市民の声に見る横浜の暮らしやすさ―関本利恵子
 - ⑤市民の暮らしやすさ指標 ————— 編集部
- 3 横浜の暮らしやすさを高めるために
 - ①利便性とうるおいが両立する街を目指して ————— 施策研究会からの提案
 - ②安全・安心のまちづくり ————— 安全性・うるおいグループ

●第150号(二〇〇二年九月)

特集・大都市自治体改革の展望―成熟社会の自治体運営を考える

- 1 対談・大都市自治体改革のビジョン ————— 金子 勝・中田 宏・司会 金田孝之
 - 2 自治体経営と政策評価―協働の理念再考―山本 清 参加から協働へ
 - 3 横浜のコミュニティ行政と市民活動の軌跡―149冊の調査季報から振り返る ————— 編集部
 - ②座談会・地域社会の変容とコーディネート型行政 ————— 横山 悠・鈴木 隆・大塚 宏
海原逸子・内海 宏
 - ③新しい自治体運営とこれからのコミュニティ行政―市民と行政の役割分担を考える ————— 編集部
 - 4 横浜市財政の特徴と課題―都市経営の視点から ————— 斎藤紀子
 - 5 市役所の経営改革―福岡市DNA2002計画の挑戦 ————— 吉村慎一
 - 6 巨大組織の活性化―改革のプロセスデザイン ————— 柴田昌治
- 自主研究レポート/生涯学習支援施策の行政評価と生涯学習施設の経営改革 ————— 林 博己 他

151

2002年12月

調査季報

編集・発行
横浜市企画局政策部調査課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1
tel.045-671-2029
2002年12月25日発行

横浜市広報印刷物登録
第140218号
類別・分類A-BA011
印刷／株式会社ガリバー

ISSN0387-8899

この印刷物は再生紙(古紙混入率70%)を使用しています